

1 基本

- 1) 一斉平等 それぞれの個人は、その主観・個性が尊重されて、平等自由を保証し合う。
- 2) 個性尊重： 年寄りも若きも家族一族が、一人一人の個性・主観を尊重し合う。
- 3) 自己決定の自由：いかなる状況下であろうと、他者よりも自己決定が優先される。

2 カウンセリング・マインドと祈り： 現象のとらえとありのままの受け止め

- 1) 絶対矛盾の自己同一： 客観的解決と瞬間的情感は相対立するが、一つのまとまり心である。物事には、表と裏、形と質、怒りと悲しみ、正と負というように二律背反があるが、ありありのまま一つのまとまりに気づいている。
- 2) 生老病死の一生を生きるプロセス： 誕生により母親と乳児の万能的関係から始まる。一者関係の世間に生きる。万能的でどんなことでも願えば叶う関係である（ミラーリング）。次に、それがかなわず幻滅して、原初的怒り（憤怒リーセントメント）を体験する。これにより、様々な嫉妬や恨みにより対象を壊し自己をも壊す。そして、二者関係の母子間で感情移入的に理解される関係の中で、周りに対して信頼しつつ、思い通りにはいかない幻滅の繰り返しと修復を繰り返すことにより、程よい愛情実感が形成される。（ α 機能と感情移入的理解）
- 3) 三者関係の世間発達と喪失： 競争・対立・比較の関係から、愛情の修復により程よい愛情を感じる関係になる。一方で、病気や事故、家任期以後の老いや近親者の死などにより、喪失により悲しみ、無力感、虚無感、言い知れぬ怒りと不安恐怖などが生じ、徐々にありのままに受け止める。自分にも、怒り・破壊心・愚かがあると気付くと、相手に優しい気持ちを抱くことができる。相手を反対側に行ったもう一人の自分と愛おしく受止められる。
- 4) 一日一生： 朝目が覚めたら新生したと自覚し、ありとあらゆることに生きる喜びを感謝して始める。夜寝る時は、一日一生、生きられたことを感謝してお休み。

3 ときとところにおける私

- 1) カイロス神の時： 心のすこやかや幸せを感じる時は、瞬間の神、カイロス神に気づき過ごすことで生じる。健康を壊し傷つくときは、赤ちゃんに戻って思いっきり今を喜び踊るようにすると元気になる。
- 2) クロノス神の時： これは365日、一日24時間で数秒の狂いなく、地球が自転、公転する。星座、光、量子力学、コンピュータに至るまで、人生を客観的な時空間でとらえる。客観真実のベルトを腰に巻き、ゆるぎない確かさを生きることができる。